

昭和大学附属烏山病院だより  
あおぞら

〔発行責任者〕病院長 岩波 明  
〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭  
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11  
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第145号

[2019年8月31日発行]

第7回東京精神科病院協会

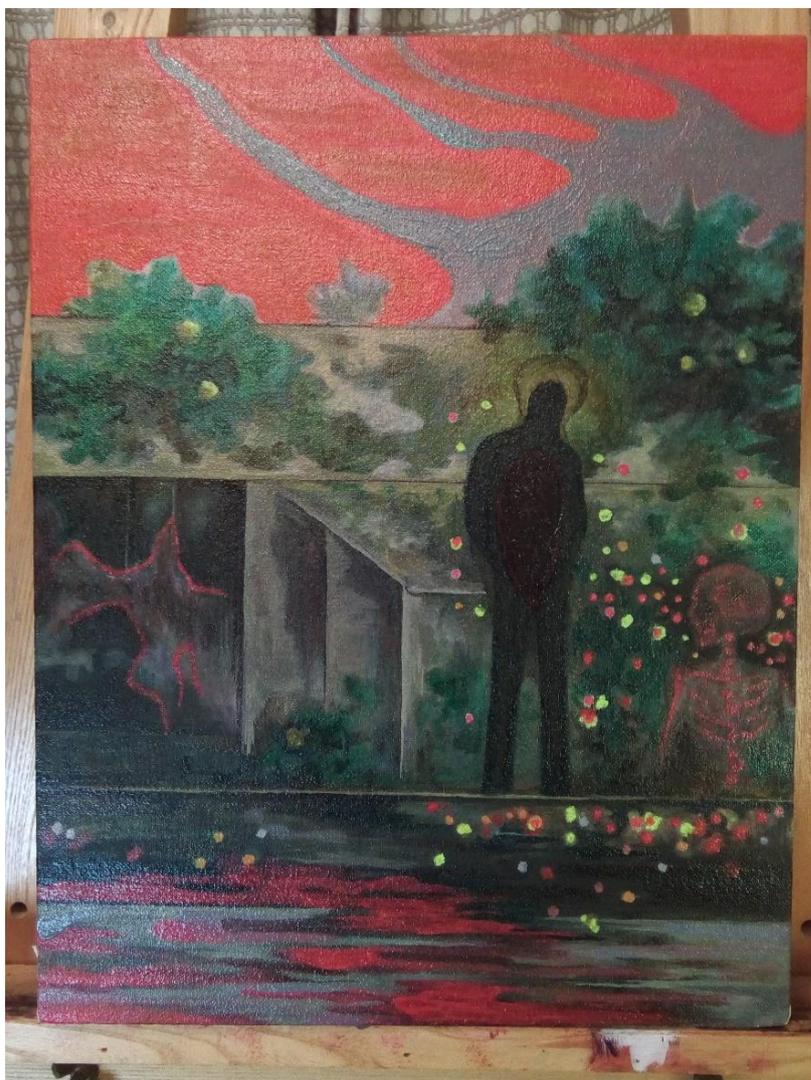
こころのアート

ごり田 ごり美

第7回東精協心のアート展、国際チャレンジドアートエキスポインジャパン 2019年6月25日～6月30日の展示作品に当院デイケア通所中の方(「ごり田ごり美」さん)の作品が選出されました。

心のアート展は、東京都精神科病院協会が主催で2年に1回開催されているもので、今年は池袋の東京芸術劇場で開催されました。「ごり田ごり美」さんの作品は、多数選出されたのですが、どれも目を奪われるものばかりでした。アート展には多くの方が訪れており、デイケアからも仲間たちが作品を見に行きました。

「ごり田ごり美」さんの作品の一部とメッセージを掲載させていただきます。



## 『絵を描くということについて』

私にとって絵を描くとは思考の整理であり、時には話す代わりであり、視野の外から下りてくるものでもあり、大抵の作品づくりの動作が、発達障害を持って生きる上で好むと好まざるに関わらず人生に発現したモノ・コトを分解と再構築し続け、そのタスクを担うものとして、日々生きるこの世界と関わるための個人用解説を蓄えるに至っているのだと自認しています。

また同時に、作品は人目に触れてこそという前提も、度々意識に上ってくるものであります。

絵を描くという行為を始めたのは10年以上前ですが、描き溜めたものは勿論誰に知られることもなく、将来住む場所を失うならばその時に泣く泣く処分せねばならない、或いは孤独死でもした後、腐乱死体の周囲の面倒なゴミとして取り扱われるのが精々だろうと本年になるまで想像していました。ですので、第7回東精協心のアート展、国際チャレンジドアートエキスポインジャパン 2019 の展示作品に選出されたこと、今回取り上げて頂いたことは大変に有難く思っております。本当に有難うございます。

私のような者の作品にはアウトサイダー・アート若しくはアール・ブリュットといった呼び方が充てられるのだらうと思いますが、偶々障害を持つという一面で枠に当て嵌まったがために作品発表の機会を得るに至ったということについてはただ喜んではいられないと感じます。

何を（大概是ジャンル化したアウトサイダーのアウトサイドに自ら位置づけられるであろう方々がと考えざるを得ない）期しての定義づけなのか、健常者を含む多様の集合から敢えて取り出してフォーカスすることが何にとってどれほど有意なのか、どこがどのようにブリュットなのか、それは恣意性を越えた真実なのか、常日頃ついつい何かと行き当たりついでにブリュットとひり出されてしまう問題です。

人が何かを描き出す時、それは必ずしも苦しみや悲しみや怨念めいた澱の中から生み出されねばならないとも、稚拙に留まるべきとも、または初めから天賦の才を発揮せねばならないとも決まっておらず、外も内も生も焼いたも本来自分にはあまり関係のないことのように感じます。

近頃は「記憶とは、風景とは、形とは」等々真面目なテーマとしており、ゆくゆくは「絵画とは、アートとは、表現とは」といったことを自然と考えるレベルにまで至れるのかは分かりませんが、今後もゴリラのように強く優しく美しい生き方を目指しつつ、感じ取るべくして感じ取ったものを自分なりの自由研究として表現し続けてゆきたいです。

## 鳥山版SBIRTS

精神医学教室 講師 常岡 俊昭

今回は鳥山病院と自助グループの連携についてのお話です。あおぞらでも何回か紹介させてもらっている自助グループ（AA/NA/GA、断酒会など）ですが、「自分たちで探して行ってみたい」と言われてもどれが自分に合うか分からず、困ってしまう方も多そうです。アルコール依存症に対してはSBIRTS（Screening:スクリーニング、Brief Intervention:簡易介入、Referral to Treatment & Self-help group:専門治療と自助グループへの紹介）という方法が自助グループへの繋がり、そこからの回復に効果を挙げています。そこで当院では毎週金曜日に初診で来院したアルコール・薬物・ギャンブル依存症の患者さんを対象に、当院から自助グループメンバーに電話しその場で話してもらい、という試みを開始しました。これによって自助グループへの疑問や心配を直接当事者から聞いてもらって、本人のニーズに合う自助グループを紹介してもらい場合によっては待ち合わせして一緒に行ってもらいます。本人が行きたがらない場合、家族だけでも話を聞いて、家族に合う場所を紹介してもらえます。2019年8月からの試みですが今のところ患者さん、家族からは良い感想を頂いています。

自助グループに参加したいけどどうして良いか分からないという方はぜひ金曜日8:30~11:00のアドレクション初診を受診してみてください。家族だけでの医療相談も受け付けています。

# BLS 講習

臨床薬理研究所 講師 龍 家圭

臨床薬理研究所ではスタッフが救急医療に対応するために、一次救命処置（Basic Life Support: BLS）を学ぶための救急医療講習会を毎年開催しており、今年も2019年7月31日に開催しました。

臨床薬理研究所は治験を実施している施設です。開発中の新薬の安全性や効果を人で確認する研究（臨床研究）をしています。臨床研究に協力していただける「健康ボランティア」さん等になにかあったときに対応できるよう、1年に1度、研究所スタッフ向けに救急医療講習会を開催しております。ここ数年は院内各病棟・外来の看護師さん、精神保健福祉室・作業療法室・検査部・放射線室の各部署からもご参加頂き、今年は13名の方に参加していただきました。サポートとして昭和大学救急医療研究部(Showa-Univ. Emergency Medical Study Club: SEMS)の学生にも協力してもらいました。

講習会は、成人BLSの流れについての概要の説明と、食物・異物が喉に詰まったときの対応である窒息解除からはじまり、その後、3つのグループに分かれて、胸骨圧迫・人工呼吸・AEDの使用方法・傷病者発見から一連の流れについて主に実技形式で学び、動画にて窒息解除の流れについて確認しました。実技を重ねていくうちに積極的に質問が飛び交う良い雰囲気でした。普段の病棟業務で不安に思っていることなど、具体的な質問も多く、非常に盛況でした。

今後も臨床薬理研究所・臨床薬理学部門では、烏山病院の一員として様々な研修活動を行えればと思っております。今後このような講習会を企画する際には、精神医学講座の先生方を含め、より多くのスタッフ皆様にもご参加頂ければと思います。



# 防災訓練を終えて

C3 病棟 看護係長：中川尚子

今年度の病棟目標の1つである防災訓練を実施し、感じたことこれからはしなければいけないことを再認識したので報告します。

C3 病棟は担送、護送患者が多く、また 24 時間拘束患者が常に 20 人以上います。日中はもとより夜間災害が発生した際、夜勤看護師 3 人での全患者避難はかなり厳しく、他病棟からの応援体制はかかせません。常日ごろから危機管理能力がもとめられます。

今回、火災を想定した避難訓練を 2019 年 7 月 25 日に実施しました。火事発見から通報、初期消火を行ない、布団を丸めたものを患者に見立て避難誘導をしました。20 台の車椅子搬送、独歩患者参加型とし、この度病院から準備された避難道具「ほいさっさ」「フレスト」を用いて実際階段降りを体験しました。まだまだ使用操作の不慣れと戸惑いもあり時間を要し搬送時の恐怖感を実感しました。リーダーとメンバー、メンバー同士の声掛け、連携の難しさ、大切さを学びました。実際は拘束帯の解除、ベッドからの移乗にかなりの時間を要します。拘束帯を外すタイミング、順番等まだまだ検討していかなければならないことがたくさんあります。廊下の不要な物品、避難経路をふさがない安全な避難ルートの確保、全員が非常時持出し物品の場所を把握すること、再確認の良い機会でした。今回当院での防災訓練に初めて参加したスタッフもいました。

平常は施錠されている病棟。非常時でも平常心を保ち落ち着いて行動し、安全に 1 分 1 秒でも避難、誘導の時間短縮ができるよう多職種合同での訓練を重ねていきたいです。

## 総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～土曜日・8時30分～17時  
電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329  
土曜日 03-3300-5231  
◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時  
◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《7月》	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	8,671 (8,448)	6,746 (6,059)
◇一日平均患者数	279.7 (281.6)	259.5 (242.4)
◆診療実日数	30 (31)	25 (22)

## 【編集後記】

暑い季節も終わり台風の季節がやってきました。季節外れの暑さに、インフルエンザも、今までの常識が利かなくなってきました。

安全に気を使いながら、今までの常識にとらわれない新しい企画を考えていければいいと思っています。

皆さまからのご意見をいただければありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

広報委員 常岡

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちして

おります。連絡先は [k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp](mailto:k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp)

